



進学先

奈良県立医科大学
医学部看護学科

檜皮谷 茉奈さん

桐蔭高校（桐蔭中学）

吹奏楽部

進学先

大阪公立大学
現代システム科学域

山路 幸穂さん

桐蔭高校（桐蔭中学）

吹奏楽部

Academy Campusに来てくれた
きっかけは？

山路： 小4でGES（小学生部：県立中学受験専門クラス）に入って、中学も続けて（中学生部：桐蔭中学完全専門クラス）、高校でもアカデミーに続けて通いました。

檜皮谷： 私は小3からパズル道場（算数の土台の力である論理的思考を伸ばし高める教室）に通い始めて、小5の2学期からGES、そのまま中学も続けて、高校でもアカデミーに。パズル道場は面白かったです。いろんな図形の問題とかを使って考えるっていう経験があったから、数学が好きになったんだと思います。思考することを変えて思うこともなく、楽しくできたと思います。

吹奏楽部についてや、習い事でも忙しかった中での勉強との両立について教えてください。

山路： 中学から吹奏楽部に入部して、高校でも続けました。基本、土日も練習。団体練習の後の個人練習も含めてほしい毎日19時ぐらいまで。平日はほぼ個人練習で、休日は合奏でした。吹奏楽部って、個人の活動じゃなくて団体活動。練習の量より精神的にしんどかった時期もありました。でも、長い時間一緒にやってるからこそ絆ができるし、先輩や後輩とも仲良くなれたし、あのキツさに慣れていたらだいたいのことは乗り越えられるかなって思います（笑）。

檜皮谷： 私は中学の時は演劇部。もともと音楽が好きだったのと吹奏楽部の定期演奏会や新歓の活動を見て、吹奏楽部もいいなと思っていたら、幸穂（山路さん）から勧誘されて。高校で入部しました。吹部に限らず、いろんな部活において「基礎がすごい大事」って言われると思うんですけど、個人練習の基礎練習って一番地味で、コツコツ続けないといけないから、けっこうみんなおろそかにしてしまう。でも自分は初心者ってこともあって、最初はどのようにいいかわからなかったから、とりあえず基礎練をがんばりました。その結果、どんどん応用もできるようになって。基礎が大事ということを改めて学べました。吹奏楽部では、辛いことがあっても、違うパートの子たちとも励まし合って乗り越えることができたと思います。

山路： 勉強との両立については、吹奏楽部の練習は遅くまであるし、体力的にしんどくて。帰ったら勉強する力が残っていないから、高2の最初ぐらいまではこのまま続けられるのかってずっと悩んでました。でも先輩たちもこれ乗り越えているんだから、やるしかないって思うようになって。部活が終わって帰ったら1時間寝るって決めて、そのあとに宿題とかを一気にやるようにしました。習い事は、一つの道を極めるというのではなくて、英会話とバレエとピアノを。バレエは部活のあとに行っていたんですけど、体を動かしたら逆に頭がスッキリして勉強がはかどりました。ピアノは月に1回、大阪までレッスンを受けに行っていました。



檜皮谷： 私も部活して帰ったら疲れていて。で、だらだらしちゃって1日が終わりたいな。そんな毎日だったんですけど、テスト期間だけ部活がオフだったから、そのときだけは学校が終わってからすぐ塾に来て。22時まで絶対勉強するって決めて、定期考査だけはしっかりやるようにしていました。習い事は、部活のあとにいろいろ行っていました。年中の頃から習字を続けて、中3のときに最高位の十段を取ることができました。他は、バレエと英会話です。



志望校を決めたきっかけや時期は？

檜皮谷： 家族や親戚に医療従事者が多いということもあって、医療福祉系に進みたいと中学の頃からぼんやりと考えていました。高2の秋に、和医大の学園祭でドクターヘリを見学したことがきっかけでフライトナースになりたいと思うようになりました。で、いろいろ大学を調べて奈良県立医科大学に魅力を感じて、志望校に決めました。私大の併願は近畿大学を。自慢ですけど、B日程で合格して特待生でした。上位2位のうちの1人。

山路： おー！すごい！

私は、高2の夏ぐらいに志望校を決めました。社会系・環境系の勉強をしたいなっていうのはずっと思っていたので、最初は和大の観光学部を志望していたんですけど、どちらかという和歌山の地域のことを深く研究するというイメージが強くて。でも、自分はもっと大きな括りで環境や社会のことについて学びたいなって思ってた。社会学部系って私立大に多いから私立にしようかなとも思ったんですけど、大阪公立大の現代システム科学域に出会って、あ、ここだ！って決めました。で、志望校の推薦入試のことは、アカデミーの先輩のインタビューを読んで知りました。推薦入試のために準備したこととしては、地域で取り組んでいる環境活動に参加したり、小中学生の時に参加した地域学習でやってきたことを振り返ったりしました。対策は、過去問で練習をしたり、社会問題のニュースや新聞記事を意識的に見るようにしました。英語は普通に二次対策の勉強を。あとは教授の英語の論文みたいなものも読みました。小論文対策のサテライン(AC特別選抜対策講座の〈代ゼミサテライン講座〉青木邦容講師 入試対策小論文講座小論文-基礎編)で、要約の仕方を教えてもらえたこともよかったです。要約するときって、書きたいことが多くなっちゃって綺麗にできなかったんですけど、ここは入れてこういうところは省くっていう基礎を知れたから要約問題にはすごく役に立ちました。



Academy Campusのことについて教えてください。

檜皮谷： 成長できたと思えたのは、共通テスト英語の授業(ACクラスライブ授業:共通テスト攻略英語)。リスニングもリーディングも本当に壊滅的だったんですけど、単語や文法を覚え直しながらヨッシー(吉田先生)の授業で解法を教わったことで、自分が解くルールが決まって、すごい楽に解けるようになりました。その方法で夏からずっと解いていたら、読むスピードとか問題を解くスピードがどんどん速くなってきて。最初は読める気なんかしなかったんです。こんな文章量読めるわけないって思っていたけど、共テ本番までにはちゃんと第8問の最後まで読めるようになったので、すごよかったです。

山路： 私は国語の授業(ACクラスライブ授業:共通テスト攻略国語)。国語はもともと苦手ではなかったんですけど、文系なのに点数が安定していなくて武器とは言えない感じで。でも長沼先生の授業、特に古典の授業を受けてから、点数が安定してきて。絶対落としたらいけない文法や、解くスピードの上げ方を教えてもらって安定したので、本番でもけっこうよかったです。

檜皮谷： サテライン〈代ゼミサテライン講座〉では、共通テスト化学が良かったです。亀田先生(亀田和久講師)は「色で覚える」って言って、色鉛筆を使う授業で。そのあと絶対自分でまとめノートを作る。色で覚えているから、なんとなくでしか覚えてなかったものでも、あ、これ、わかる！って。最初先生の説明を聞いてもあまりピンときていなかったんですけど、勉強を進めていくうちに、あ、こういうことか！みたいな。色で覚えるのはすごくよかったです。

あとは標準物理(為近和彦講師〈標準物理①②〉)。最終的には二次試験で物理は使わなかったんですけど、物理を根本的に理解できたし共テで使える解法を教えてくれた。どんな問題にでも使える解法だったから、すごいよかったなと思いました。

山路： 私は、共テ世界史探究の授業(佐藤幸夫講師〈共通テスト世界史探究〉)。佐藤先生の授業は、話がおもしろすぎて。授業っていうより世界史の話っていう感じで聞けて、楽しく勉強できました。先生のYouTubeも見て、世界史めっちゃおもしろい！と思って好きになりました。

他に、アカデミーの授業で良かったのは、EQ(英語基礎カトレーニング講座「English Quest」:テストに合格するまで帰れないAC伝統講座)。やっぱりイディオムを覚えておくだけでも英語を読むのが速くなるし、そういう言い回しを使って英作文の練習もできるし。マジでしんどかったけど、語彙が増えたと、やってよかったなって思います。

檜皮谷： 私もEQやってよかったと思いました！EQはしんどいけど、やっておくべき。あとは、共通テストリハーサル(12月末の二日間、共通テスト当日と同じ時間配分・会場の雰囲気ですべて共通テスト本番を体感するAC特別講座)もすごくよかったです。初めて実際の共テ時間割でやって。休憩時間ってこんな感じなんやとか、めっちゃ長いとか、問題が配られてからじーっと待っている長い時間をどう過ごすか、みたいなことを本番の前に知ることができてよかったなって思いました。



集中して勉強できる場所は？

檜皮谷： アカデミーや図書館など5つの自習室を使いわけてました。自分は毎日同じ場所だと飽きてきて勉強できなかった。だから1カ所では勉強できないっていう人は、高1のときからいろんな場所を開拓しておいたほうがいいと思います。家でずっと勉強できるよっていう人はそれでいいと思うんですけど。で、私はそれぞれお気に入りの席も決めていました。学校が終わったら、早くアカデミーに着いてお気に入りの席をゲットする。それに命をかけて学校を出発していました(笑)。

山路： 私は人が多いとか知り合いがいるのが嫌だったから、一番勉強がはかどったのは家のリビングでした。家族にも黙ってもらって(笑)。夜の21時から1時ぐらいまでずっとリビングで。感謝してます。でも、アカデミーのチャレ勉(時間管理型の自習。質問対応あり。)はけっこう良かった。日曜の昼からって、けっこうダレてしまうし。人は多かったけど、チャレ勉はあんまり苦じゃなくて。質問もできるしよかったです。

檜皮谷： 私は、自分のタイミングで休憩して、自分が集中したいとき一気にやりたい派だった。自分で黙々と2時間ぶっ続けでやって、ちょっと休憩して、またぶっ続けでするっていうのが合っていた気がします。でも、集中できないとか、日曜の昼からはダレてしまうとか、勉強するスイッチが自分では入れにくいっていう人は、チャレ勉で勉強したほうが絶対にいいと思う。自分に合った方法を選べばいいのかなって思います。

受験勉強で意識していたことは？

山路： 集中力が切れたら1回やめる。ダラダラ続けずに1回やめて、お風呂に入るとか顔を洗うとか。おすすめは、歯を磨くことです。1日10回ぐらい磨いていたときもあったぐらい、歯を磨けばシャキッとなります。あとは氷を食べる。他は、苦手教科ばかりするんじゃなくて得意な教科もちゃんとやる。苦手教科ばかりしていたら、ネガティブになって、なんて自分はバカなんだってなるから。得意な教科や自分ができる教科に切り替えて、天才かも！っていう気持ちになることが大事かなって思います。

檜皮谷： 私は、秋ぐらいまでは過去問をやって点数をつけるという勉強より、基礎を固めるって決めていました。間違えた問題は、絶対に自分がちゃんと理解できるように、自分の腑に落とすようにしてました。じゃないと同じような問題をやってもどうせできないから。それはずっと意識していました。共テ直前の演習で点数をつけ始めてからは、点数が1番のモチベーションになっていました。ボーダーに届くようにするっていうより、高得点を取りたいっていう欲の方が強くて。いろんな問題に正解したい、正解できるように解いていきたいっていうのが強かったです。苦手科目で8割取れたら安心はするけど、満足せず。得意教科で8割9割取れても、たまたまって思うようにしてしていました。



Academy Campusはどんな場所でしたか。

山路： 勉強のスイッチが入る場所。最初は授業を受けに来るだけだったけど、高2になってからはどんどん"受験"っていう雰囲気になって、がんばらないって思える場所でした。

檜皮谷： 私も一緒です。アカデミーに来るまでの時間が自分の勉強スイッチを入れる時。この自動ドアを通してアカデミーに入ったら、勉強するぞ、って。

大学生活の抱負を教えてください。

檜皮谷： 大学生活も、いろんなことに挑戦してがんばっていきたいと思っています。勉強はやっぱり自分が興味のあることを学べるので、しっかりと学んで、将来、いい看護師になれるようにがんばりたいと思っています。

山路： 電車通学になるので1時間半ぐらいかかっちゃうけど、無遅刻無欠席をめざして(笑)。勉強もしつつ楽しみつっ、将来は公務員として和歌山で働けたらなって思っています。

後輩へのメッセージをお願いします。

山路： 10月頃は志望理由書や面接練習とかにめっちゃ時間を取られて、共テの勉強が夏の半分ぐらいになっちゃってて。そのときにはちょうど模試もあって点数もあまり取れてなかったから、推薦あかんかったらどうしようってめっちゃ不安になっていたけど、なんとかなる。不安になって、「どれかを諦めない」とって思うんじゃなくて、気持ちはキツいけどがんばり続けたらなんとかなるから大丈夫って言いたいです。

檜皮谷： 私の中学・高校生活は、勉強より学校行事や学校生活に重きを置いた生活だったと思います。生徒会長も務めたし。いろんなことに挑戦するっていうのは、大学生とか社会人になってもできると思うんですけど、今、そんなん無理やろって思ってることでも成長してみればやっておいてよかったなって思うこともあると思うし、悩んでたこともちっぽけなことだったと思うかもしれないから、勉強以外のことにもいろいろ挑戦してほしいと思います。高3の文化祭や体育祭は、ある程度準備にも参加して、楽しんだほうがいい。勉強をおろそかにしてるというマイナス面だけで捉えるんじゃなくて、それもしつつ勉強している自分を褒めてあげたらいいいと思います。夏にすごい低い点数でも、本当にがんばっていたら伸びるので。私も最後にやっぱりグイッと伸びたので、安心してほしい。心配なこともいっぱいあると思うけど、楽しいことや大学生の自分を想像して勉強すれば、気持ちが楽になるかもしれないです。

インタビューを終えて

二人に共通しているのは、勉強だけでなく、部活動や習い事にも最後まで一生懸命取り組んでいたことです。二人とも吹奏楽部に所属し、高校3年生の8月まで活動を続けていました。また、習い事も多く、決して時間に余裕のある高校生活ではありませんでした。そのような中でも、部活動や習い事を続けながら、受験勉強にも真剣に向き合っていました。檜皮谷さんは、自習室で黙々と学習に取り組む姿が印象的でした。自習室に来ると、自分のやるべきことに静かに集中し、周囲に流されることなく、一つひとつの課題に丁寧に向き合っていました。特に心に残っているのは、長時間勉強していたことそのものではなく、「今、自分がやるべきこと」に真っ直ぐ向き合う姿勢です。日々の積み重ねを大切にしながら、着実に力を伸ばしていった生徒だと思えます。

一方、山路さんは、勉強とそれ以外の時間とのメリハリをつけることがとても上手でした。部活動や習い事など、やること多い中でも、限られた時間を有効に使い、勉強するときにはしっかり集中する。自分の生活の中で「いつ、何をするのか」を考えながら行動できていたことが、受験勉強を継続するうえで大きな強みになっていました。二人の勉強への向き合い方はそれぞれ異なります。檜皮谷さんは一つのことに深く集中する力、山路さんは時間を上手に切り替えて使う力を持っていました。しかし共通していたのは、限られた時間の中でも自分なりの方法を見つけ、最後まで努力を続けたことです。受験勉強は、必ずしも勉強だけに時間を使えるわけではありません。部活動や習い事、学校生活など、さまざまなこととの両立が求められま



す。二人の姿を見ると、大切なのは「どれだけ時間をかけたか」だけではなく、「限られた時間をどう使うか」、そして「自分に合った方法で努力を続けられるか」ということを改めて感じます。二人には、これからもそれぞれの強みを生かしながら、自分らしく新しい目標に挑戦してほしいと思います。

AC県庁前校カウンセリングスタッフ 赤井 栄木